

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	世界史A	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

教科書 世界史A (東京書籍)

### 2 科目の目標

各地の歴史を学び、地域がそれぞれに多様な文化を育ててきたことと互いに結びついてきたことを知る。現在から歴史をみてあたらしい時代を開いていく姿勢を身につけていく。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)	
前 期	4月	アジア諸帝国の繁栄と ヨーロッパ	中華帝国の繁栄と東アジア 15から17世紀の東南アジア 西アジアと南アジア 16世紀のヨーロッパ ヨーロッパの主権国家体制の成立	定期考査①	13
	5月				
	6月	大西洋世界の変容とその 波及	ヨーロッパとアメリカの諸革命 産業革命と世界市場の形成 ヨーロッパの動乱の波及	定期考査②	15
	7月	産業化社会の拡大と成熟	ウィーン体制とその崩壊 国民国家への路	定期考査③	15
	8月	アジア諸国の変貌と日本	東アジアの変容 東南アジアの変容 南アジアの変容 西アジア・アフリカの変容		
9月					
後 期	10月	帝国と民族の時代	急変する人類社会 植民地の拡大と深まる対立 <b>アジア・アフリカの抵抗運動</b>	定期考査④	18
	11月	二つの世界大戦の時代	第一次世界大戦 戦後秩序の形成 世界恐慌とファシズム		
	12月	冷戦と民族独立の時代	第二次世界大戦 戦後世界の形成 アジア・アフリカの民族運動	期末考査⑤	17
	1月		冷戦体制の動揺 冷戦の終結		
	2月		グローバル化と諸地域の模索 現代の戦争と平和		
	3月				

### 4 評価の方法

近現代の世界について理解し、そこから現在の世界情勢と自分たちの生活について考えることができたかを、授業中の発言や考査、提出物等で総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 授業の欠課・遅刻をしないこと。  
プリントをしっかりと記入し、学習に活用すること。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	世界史B	単位数	4単位
-----	------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

新詳 高校世界史(山川出版社)

### 2 科目の目標

現在の世界情勢を理解するために、古代から現在までの世界各地の歴史の流れと文化を詳細に学びます。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 ( 予 定 )
前 期	4月	人類の出現	定期考査①	26
	5月	オリエント世界 南アジア世界 東南アジア世界 東アジア世界		
	6月	中央ユーラシア 東アジアの変動 イスラーム世界	定期考査②	30
	7月	ヨーロッパ世界 ユーラシア大帝国の出現 東アジア地域の繁栄と成熟	定期考査③	30
	8月	キリスト教の拡大 西ヨーロッパの成長と拡大 封建社会の解体と王権の伸長 モンゴル帝国 明・清帝国繁栄		
9月	大航海時代 ルネサンス 主権国家体制	定期考査④	36	
後 期	10月	産業革命 環大西洋革命	定期考査④	36
	11月	イギリスの覇権と欧米の国民国家 アジアの変容		
	12月	帝国主義 世界大戦の時代	期末考査⑤	34
	1月	帝国主義と世界分割 第一次世界大戦 世界恐慌とファシズムの出現 第二次世界大戦の惨禍		
	2月	東西冷戦から多極化へ グローバル化の進行		
3月	冷戦の展開 多極化の時代 冷戦の終結 グローバル化の時代			

### 4 評価の方法

古代から現代にいたる世界各地の情勢について理解を深め、自分の歴史観を持つことで、現在の世界情勢と自分たちの生活について考えることができたかを、授業中の発言や考査、提出物等で総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

- ・授業には欠席や遅刻をせず毎回きちんと出席すること。
- ・授業の内容をしっかりと聴き、ノートをとって学習を深めること。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	日本史A	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

教科書 高等学校 日本史A最新版 (清水書院)

### 2 科目の目標

日本の近代史・現代史を学ぶことにより、現代の日本と世界が直面している政治、経済、社会、文化等の課題について、自分なりの見方、考え方ができるようになるためである。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	国際環境の変化と幕藩体制の動揺	定期考査①	13
	5月	明治維新と近代国家の形成		
	6月		定期考査②	15
	7月	立憲政体の成立と国際的地位の向上	定期考査③	15
	8月			
	9月	第一次世界大戦と日本		
後 期	10月		定期考査④	18
	11月	第2次世界大戦と日本		
	12月		期末考査⑤	17
	1月	戦後政治の動向と国際社		
	2月	経済の発展と国民生活の		
3月	現代の日本と世界			

### 4 評価の方法

授業や課題に主体的に取り組むことができたか、また歴史の大きな流れやその背景が理解できたかを出席状態や授業態度、提出物、考査などにより総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 毎時間の授業を大切にし、板書を参考に自分なりのノートを作成する。教科書等の図表や史料を読み取り、自分なりの歴史的考察を深めるようにする。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	日本史B	単位数	4単位
-----	------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

改訂版 高校 日本史B(実教出版)

### 2 科目の目標

日本の原始・古代から現代までの全時代を学び、自分なりの歴史の見方、考え方を培うことで、現代の日本、世界が直面している政治、経済、社会、文化等について自分なりの見方、考え方ができるようにすること。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	原始・古代 文化と国家の形成	定期考査①	26
	5月	古代国家の確立		
	6月	中世 中世社会の成立	定期考査②	30
	7月	中世社会の展開	定期考査③	30
	8月			
9月	近世 統一政権の成立			
後 期	10月	幕藩体制の展開	定期考査④	36
	11月	近代国家の成立		
	12月	大日本帝国の形成 大日本帝国の展開 15年戦争と日本・アジア	期末考査⑤	34
	1月	現代 戦後改革と高度経済成長		
	2月			
3月				

### 4 評価の方法

日本の歴史の大きな流れや各時代の特色を把握することができたかを確認する。授業について、主体的に取り組んでいるか、出席や授業態度、提出物、考査などから総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 毎時間の授業を大切にし、板書を参考に自分なりのノートを作成する。また教科書等の写真や図など史料を読み取り、自分なりの歴史的考察を深めるようにする。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理A	単位数	2単位
-----	-----	-----	-----

### 1 教科書・副教材

教科書 高等学校 新地理A (帝国書院)

### 2 科目の目標

世界の諸地域の自然環境や人々の生活・文化について学習しながら、地理的な見方や考え方を養う。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	球面上の世界	定期考査①	13
	5月	結びつく現代世界		
	6月	多様化する人間 行動と国際社会	定期考査②	15
	7月	大縮尺の地図	定期考査③	15
	8月	自然環境		
9月	地形			
後 期	10月	気候	定期考査④	18
	11月	世界諸地域の 生活・文化		
	12月	東南アジアの生活・文化 インドの生活・文化 ヨーロッパの生活・文化		
	1月	近隣諸国と日本	期末考査⑤	17
	2月	地球的課題		
	3月			

### 4 評価の方法

「思考力・判断力・表現力」、「知識・理解」、「関心・意欲・態度」について、授業、提出物、定期考査等により総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 地名を地図上で確認する習慣をつけよう。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理B	単位数	4単位
-----	-----	-----	-----

### 1 教科書・副教材

教科書	新詳地理B (帝国書院)
地図帳	標準高等地図-地図でよむ現代社会- (帝国書院)

### 2 科目の目標

世界・日本の地形と気候を学び、気候による農業の違いに気がつくようにする。世界各国の気候・地下資源などによる農業・工業と文化の違いを学ぶ

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 ( 予 定 )	
前 期	4月	世界の地形環境	定期的営力による世界の大地形 プレート運動、造山帯、火山活動 地形図の見方・読み方	定期考査①	26
	5月				
	6月	世界の気候環境	気温・降水・風 局地的な気候、異常気象 気候と植生・土壌	定期考査②	30
	7月				
	8月	日本の自然環境	亜寒帯気候、寒帯気候、高山気候 日本の地形・気候と自然災害 自然分野のまとめと作業学習	定期考査③	30
	9月				
後 期	10月	産業活動 (2)	先進国の農業 途上国の農業 日本の農業、世界の水産業と林業	定期考査④	36
	11月				
	12月	村落と都市 衣食住 各国の地誌	それぞれの特色と機能 世界の衣食住の地域的差異 オセアニア諸国の地誌 アメリカ合衆国・カナダの地誌 南アジアの地誌 東南アジアの地誌 西アジア・北アフリカの地誌 ヨーロッパの地誌 ラテンアメリカの地誌 中南アフリカの地誌 中国の地誌 韓国・ロシアの地誌	期末考査⑤	34
	1月				
	2月				
	3月				

### 4 評価の方法

授業に主体的に取り組み、系統地理および地誌の基本的な知識や地理的な見方・考え方がきちんと身についたかどうかを考査、提出物、授業中の発言などから総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 地図帳を毎時間持参し、地図を通して学習を深めることが大切である。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	現代社会	単位数	2 単位
-----	------	-----	------

### 1 教科書・副教材

教科書 最新現代社会 (実教出版)  
 地図帳 標準高等地図—地図でよむ現代社会— (帝国書院)

### 2 科目の目標

現代の社会で起きている地球環境・資源・生命科学・自己の形成問題等や現代の民主政治と日本国憲法の基本的性格を学び、現代社会の諸問題について、自分なりの見方、考え方ができるようになること。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	地球環境問題	定期考査①	14
	5月	資源・エネルギー問題		
	6月	生命科学と情報技術の課題	定期考査②	15
	7月	青年期と自己の形成		
	8月		定期考査③	14
	9月	現代国家と民主政治		
後 期	10月	日本国憲法の基本的性格	定期考査④	18
	11月			
	12月	日本の政治機構と政治参	期末考査⑤	17
	1月			
	2月	現代の経済社会と国民生		
3月	日本経済の特質と国民生活			

### 4 評価の方法

授業について主体的に取り組み現代の諸問題について、自分の考えを持ち発表することができる。出席・授業態度・提出物・考査等を総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から新聞やニュースを見て、社会全般に関心を持つこと、また授業を大切にし板書を参考に自分なりのノートを作成し、自分の考えを発表できるようになること。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	倫理	単位数	2単位
-----	----	-----	-----

### 1 教科書・副教材

教科書 高等学校 現代倫理 改定版 (清水書院)

### 2 科目の目標

人間とはどのような存在か、人間がよりよく生きるためにはどうしたらよいか、といった課題を世界および日本の思想を学びながら考え、深めていきます。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	青年期の課題	定期考査①	13
	5月	青年期の意義と課題 青年期と自己の形成		
	6月	真理の探求 ー 古代ギリシアの思想 神教の教え ユダヤ教とキリスト教 イスラム教	定期考査②	15
	7月	古代インド・中国の思想 仏教 古代中国思想		
	8月	古代日本の思想 日本人の宗教観・倫理観 仏教の受容と展開	定期考査③	15
	9月	近世日本の思想 儒教の日本化、国学と民衆の思想		
10月	近代日本の思想 明治時代・大正時代の思想 国際社会における日本人としての 自覚			
後 期	10月	人間の尊厳	定期考査④	18
	11月	ルネサンスの思想 宗教改革 モラリスト		
	12月	科学と人間 近代科学の方法論 民主主義と幸福 人権思想・社会契約説 功利主義と社会主義思想	期末考査⑤	17
	1月	自己実現と社会参加 カント、ヘーゲルの思想 実存主義の思想 プラグマティズムの思想		
	2月	人間と自然 生命科学と倫理 地球環境の危機と倫理		
	3月	社会生活と自己 生命科学と倫理 社会生活と自己 地球環境の危機と倫理 国際社会と自己 家族・地域社会の倫理 国際理解、人類の福祉		

### 4 評価の方法

「思考力・判断力・表現力」、「知識・理解」、「関心・意欲・態度」について、授業への取り組み、提出物、定期考査等により総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

授業中はしっかりと話を聞いて理解し、自分の考えをもつことが大切です。



## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	政治・経済	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

教科書 新版 政治・経済 (実教出版)

### 2 科目の目標

現代社会で学んだ内容を基礎に、日本の政治・経済の仕組みや国際政治・国際経済の諸事項について具体的な事例を参考にしながら理解を深め、日本及び世界の現状と諸課題について考えます。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	民主政治の基本原理 世界の政治制度	民主政治の成立とその基本原理 主な政治体制	定期考査①	13
	5月	日本国憲法 基本的人権	日本国憲法の成立と基本原理 自由権・平等権・社会権		
	6月	新しい人権 日本の政治機構	環境権、プライバシー権 国会・内閣・裁判所のしくみ	定期考査②	15
	7月	地方自治 政党と選挙	地方分権と今後の課題 日本の政党政治と選挙制度	定期考査③	15
	8月	世論と民主政治 国際社会と国際法	民主政治と世論 国際法と国際社会		
	9月	国際連合と国際協力 日本の平和主義と国際平和	第二次大戦後の国際情勢 国際連合と国際協調 憲法第9条と自衛隊・日米安保 国際平和と日本の役割		
10月	資本主義経済 市場のはたらき 現代の企業	資本主義経済の成立と発展 市場の役割 株式会社			
後 期	11月	景気変動 金融の役割 財政の役割と租税	経済成長と景気変動 中央銀行と金融政策 財政政策の役割、財政問題	定期考査④	18
	12月	現代の日本経済 公害	租税の意義と種類 日本経済の歩みと現状 日本の公害問題	期末考査⑤	17
	1月	労働関係の改善 社会保障 国際経済	労働基本権と労働運動 日本の社会保障制度とその課題 国際経済のしくみ(貿易・為替)		
	2月	まとめ	国際経済の動向		
	3月				

### 4 評価の方法

「思考力・判断力・表現力」、「知識・理解」、「関心・意欲・態度」について、授業、提出物、定期考査等により総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

ふだんから新聞やニュースを見て、社会事象全般に関心を持つことが大切です。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	総合社会	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。地図帳を持参することが望ましい。

### 2 科目の目標

地歴公民科目全般を復習しながら、特に現代社会分野に重点を置き、国内外における現代の諸問題について関心を持たせるとともに主体的に考えさせて理解を深める。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 ( 予 定 )
前 期	4月	環境問題 地球温暖化 公害問題	定期考査①	13
	5月	経済の仕組み① 産業構造の変化 企業の役割 市場の仕組み		
	6月	経済の仕組み② お金の仕組み 金融機関の仕組み 財政と税金の仕組み	定期考査②	15
	7月	経済の仕組み③ 日本経済の歩み 日本の農業と食糧問題 労働問題	定期考査③	15
	8月	経済の仕組み④ 貿易の仕組み		
9月	経済の仕組み⑤ 為替の仕組み 貿易と為替の問題点 消費者問題			
後 期	10月	政治の仕組み① 日本国憲法の仕組みと問題点	定期考査④	18
	11月	政治の仕組み② 裁判の仕組み 国会の仕組み 内閣の仕組み		
	12月	国際政治② 日本の選挙制度の問題点 第二次世界大戦後の国際社会	期末考査⑤	17
	1月	国際政治② 国境と領土問題 地域紛争		
	2月	国際政治② 国際連合の役割 核廃絶と国際平和		
	3月			

### 4 評価の方法

授業への参加や提出物等の内容から、授業の内容が理解できたか、またそれらについて考察ができたかを総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から少しでもニュースや新聞に触れて、社会の概要・現状を知ろうとすることが大切です。

## 平成28年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	国際社会と情報	単位数	1単位
-----	---------	-----	-----

### 1 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。

### 2 科目の目標

現代社会の情報化の観点から、国内外における現代の諸問題について関心を持たせるとともに主体的に考え、情報化社会を生きる力を養う。

### 3 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 ( 予 定 )
前 期	4月	情報化社会の課題		6
	5月			
	6月	国際社会の現状と課題		9
	7月			
	8月			9
9月				
後 期	10月	情報技術の仕組み		10
	11月			
	12月			
	1月	発表とまとめ		5
	2月			
3月				

### 4 評価の方法

授業への参加や作成課題等の内容から、授業の内容が理解できたか、ねらいとする知識や技能が身についたかを総合的に評価する。

### 5 学習にあたっての注意とアドバイス

※

日頃から少しでもニュースや新聞に触れて、社会の概要・現状を知ろうとすることが大切です。